

8月11日

修院長おとめクララ

Clare of Assisi (1194-1153)

～クララ女子修道会創始者～



「聖クララ」

By シモーネ・マルティーニ

(1312-20)

フレスコ画

聖フランシスコ大聖堂

イタリア、アッシジ

イタリアのアッシジに、貴族の長女として生まれ、敬虔な両親によって信心深く育てられた。18歳のとき、同じ町の聖フランシスコによる四旬節の説教を聞き、心を動かされ、家を抜け出して、彼に従い、修道女となった。フランシスコ会には、当時まだ女子修道会がなかったため、しばらくの間、ベネディクト会の修道院で暮らした。驚いたクララの家族は懸命に彼女を家に戻らせようとしたが、彼女の志がくじかれることはなかった。妹アグネスも数日後修道院に入った。

やがて、彼女といっしょに修道生活を望む娘たちが集まってきたため、クララは新しく、フランシスコの指導のもとにサン・ダミアーノで女子修道会(第二会)を創設した。その時まで女子修道会では行なわれていなかった厳しい生活を義務付け、いつも裸足で、肉は一切食べず、非常に長い沈黙の時を持った。彼女の母を含む親族も彼女の修道院に入り、修道会はどんどん発展し、広がっていった。

クララは院長になってからでも、つつましく、また目下の修道女たちに対して、母親のように振舞った。1224年頃から死に至るまで、ほとんど病床に

あったが、その清貧、貞潔な生涯は多くの人々の感嘆の的となった。

特に聖体に対する愛は、彼女の一つの特徴であったという。

1240年には、イスラム教徒がアッシジの町とその城壁の外にあったクララの修道院を襲撃するという事件が起こった。その際、クララは病床にあってもかかわらず、聖体をささげて兵士たちの方へ向けたところ、兵士たちは恐れおののいて一目散に逃げ去り、アッシジの町と修道院を守り抜いたと伝えられる。

1255年、アレクサンデル4世によって列聖。肖像画には、会則書、ユリ、十字架、聖体器、聖体顕示台が添えて描かれている。(M)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした修院長おとめクララは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン